

## 当院におけるカンガルーケアの現状と今後の課題

医療法人真田産婦人科麻酔科クリニック

○ 鄭香苗 内川加代子 酒井康子 津原富久恵 堀井二三代 永江里美 野口あけみ  
神保由香 井上尚美 高柳典子 平川万紀子 平川俊夫

産業医科大学産業保健学部

福澤雪子

佐賀大学医学部看護学科

山川裕子

【研究目的】当院は産後の育児・授乳が円滑に行われるよう、妊娠中より心身両面のケアに取り組んでいる。平成18年11月より、母子の愛着形成と母乳育児へのスムーズな移行を目指して分娩直後のカンガルーケアを導入した。取り組みとその効果・現状を報告する。

【研究方法】対象と調査期間：平成18年1月から平成19年3月に当院で出産した母子。調査方法：母親の精神状態（EPDS）と愛着感情（赤ちゃんへの気持ち質問票）を退院時と1ヶ月健診時に、授乳状況は退院時に調査。カンガルーケア実施児については、体温・心拍数・SPO<sub>2</sub>を出生15・30分後に調査。

【結果】分析対象はカンガルーケア導入前の母子（非実施群）581組、カンガルーケアを実施した母子（実施群）245組。実施群の平均年齢30.0±4.6歳、初産婦135名（55.1%）。非実施群の平均年齢29.8±4.8歳、初産婦298名（51.3%）。EPDS得点は実施群が退院時4.0±3.5点、1ヵ月時3.1±3.0点、非実施群は退院時4.3±3.3点、1ヵ月時3.2±2.7点。愛着得点は、実施群が退院時1.81±2.14点、1ヵ月時1.50±1.93点。非実施群は退院時1.71±1.99点、1ヵ月時1.42±1.92点。いずれも有意差は無かった。授乳状況は実施群の母乳率84%、非実施群65.7%。χ<sup>2</sup>検定で有意差がみられた。カンガルーケア実施児の平均体温は37.1℃から36.8℃、心拍数は149.5から144.5、SPO<sub>2</sub>は96.8%から97.5%であった。ケア実施児の8.6%にあたる21例が体温低下のため、カンガルーケア中断となった。

【考察】カンガルーケア実施群の母乳栄養率が高いが、これは、同時期に開始した母乳率向上にむけたケアの影響とも考えられるが検討が必要である。モニタリングしながらカンガルーケアを行うことで、児の体温低下を早期に発見できた。母子愛着については、結果が出なかったが、分娩直後の母子のスキンシップは母乳育児の端緒であるという認識の下に、母親の反応も踏まえながらケアのあり方について検討を重ね、充実を図りたい。

【結論】今回の調査では、カンガルーケアの有無による母親の精神状態と愛着感情に差はなく、関連はなかった。新生児の状態をモニタリングしながらカンガルーケアを行う方法は、母子のみならず、医療者にとっても安全・安心な方法といえる。